

第 14 回 京都医療センター 1型糖尿病セミナー

先進糖尿病治療とその社会的影響

インスリンポンプ療法(CSII)、持続血糖測定器(CGM)など先進糖尿病治療の発展に伴い、航空保安から患者アクセス・医療費の問題に至るまで、さまざまな社会的影響を考慮する必要が高まっています。今回の京都医療センター1型糖尿病セミナーでは、先進糖尿病治療の安全かつ有効な推進に役立つ知識を深めると同時に、参加者のみなさまとともにその社会的影響について、議論を深めていきたいと思っております。

対象は、1型糖尿病患者の診療に関心がある医師(内科・小児科など)、コメディカル(看護師・管理栄養士・薬剤師・助産師・臨床検査技師など)です。みなさまのご参加をお待ちしております。

主催：(独)国立病院機構京都医療センター 糖尿病センター

日時：2018年3月11日(日) 11:00-15:30 (10:45 開場)

場所：(独)国立病院機構 京都医療センター

新中央診療棟 4階 多目的ホールにて

地図：当院 HP (<http://www.hosp.go.jp/~kyotolan/>) をご参照ください。

定員：70名(先着順)

参加費：無料

申込方法：氏名(ふりがな)・所属・職種・郵便物送付先住所・電話番号を記載の上、下記宛先まで電子メールにてお申し込みください(電話・FAXによる申し込みは受け付けておりません)。定員になり次第、申し込みを終了させていただきます。

連絡先：kmct1dm-project@umin.org (糖尿病センター 村田)

プログラム（敬称略）

11:00-11:10 「はじめに」 (独)国立病院機構京都医療センター 糖尿病センター 医師 村田 敬
11:10-11:40 「パッチポンプの最新情報」 テルモ株式会社 ホスピタルシステムズDMヘルスケア・DM商品企画 丹澤 和彦
11:40-12:40 休憩
12:40-13:40 「インスリンポンプとCGMの最新情報」 日本メドトロニック 学術部 角山 信史
13:40-13:50 休憩
13:50-15:30 パネルディスカッション 「先進糖尿病治療とその社会的影響」 座長： (独)国立病院機構京都医療センター 糖尿病センター 医師 村田 敬 パネリスト： 1. 「インスリンポンプ・CGMと航空保安」 市立三次中央病院 糖尿病・代謝内分泌内科 医長 杉廣 貴史 2. 「患者の経済的負担」 刈谷豊田総合病院 内分泌・代謝内科 医師 服部 麗 3. 「糖尿病合併症の社会的費用」 東海大学医学部腎内分泌代謝内科学 准教授 豊田 雅夫 4. 「地方における先進糖尿病治療へのアクセス」 大沢内科クリニック 院長 大澤 謙三 5. 「先進糖尿病治療の病診連携」 岡山大学病院 糖尿病センター 助教 利根 淳仁

※駐車場のサービスはしていませんので、公共交通機関にてご来場ください。

※昼食は各自ご用意ください。なお院内に食堂、カフェ、コンビニがございます。